

オオシラビソの枯損に係る検討会が開催されました

令和6年12月3日(火)に、東北森林管理局の主催により仙台市で「令和6年度蔵王地域におけるオオシラビソの枯損に係る検討会」が開催されました。これは蔵王地域で虫害により広範囲に枯損しているオオシラビソの状況を把握・分析し、今後の対応を検討するため、令和元年度より宮城県と山形県の両県で毎年、交互に開催しているものです。当日は学識経験者、両県の関係者等に、森林管理局署職員も合わせて40人余が参集しました(Web参加者を含む)。

空中写真(オルソ画像)の分析結果を手はじめに、仙台・山形の両森林管理署、ならびに宮城・山形両県の取組、そして森林総合研究所東北支所の調査結果が報告されました。

現況把握の結果ですが、虫害の原因となりうる蛾(トウヒツヅリヒメハマキ)の発生数の減少や、葉への食害などの被害の拡大は見られなくなったことなどが報告されました。

また、オオシラビソ再生に向けた取り組みでは、稚樹の試験移植が概ね順調に進んでいること、播種(種まき)試験の規模を拡大したこと、オオシラビソ稚樹廻りのササ刈払いは未刈払より成長量が多いこと、そして以上の取組で関係機関と連携したイベントの成果等についての報告がありました。来年以降の播種試験に用いる種子については、今年は球果の結実が確認できず採取できませんでした。

学識経験者からは、被害の拡大が収束している状況が今後続くとしても、虫害の有無などの変化を見逃さないようモニタリングをしっかりと継続することが望ましい、とのご意見をいただきました。

令和7年度以降の取組として、虫害のモニタリング、オオシラビソ苗木の育成と調査、蔵王地蔵山頂周辺のゾーニングの検討、そして移植試験や播種試験を継続すること、モニタリングは一部で縮小しますが確実に継続すること等が発表されました。

山形県側では平成25年から、宮城県側ではそれよりはるか以前よりオオシラビソの枯損被害が発生しております。両県ではこれまでも現況を把握することに努め、当初は皆無に近かった知見と経験を積み重ね、オオシラビソ林の再生を目指しております。

今回の検討会にも、多方面から参画された皆様よりたくさんの貴重なご報告やご意見を戴きました。今後とも各関係機関と連携を密にして、再生に向けて取り組んでまいります。

